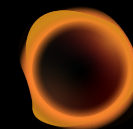




White Paper: バーコードリーダー



CAPTURE ONE  
ENTERPRISE

# White Paper

## バーコードリーダー

Eコマース小売業者向けの大量撮影を行う写真スタジオのワークフロー効率を高めるために、バーコードリーダーを使用する理由と方法。

画像ファイルに手作業で名前を付けるのは時間がかかり、ミスも起こりがちです。Capture One Enterpriseに統合されたバーコードスキャナーツールは、キャプチャーされた資産にすばやく名前を付け、正しく識別するのに役立ちます。

このハードウェアとソフトウェアの統合は、時間を節約し、手動データ入力で発生する可能性のあるヒューマンエラーを回避します。





## はじめに

このホワイトペーパーでは、Capture One Enterprise ソリューションのバーコードスキャン機能について説明し、設計、構成、使用例をレビューします。

データ入力には膨大な時間がかかります。大量の製品キャプチャーに直面するユーザーは、手作業で製品データを正しく正確にアセットにネーミングをするという大変な作業を強いられています。

データ入力作業は、写真撮影の邪魔にもなります。Excelから名前をコピー・ペーストする手間のかかる作業を省くことで、スタッフの定着と撮影に役立てることができます。

クリエイティブな人材は、自分の得意なことを最大限に発揮し、それが高品質の画像を生み出します。

データがバーコードにカプセル化されていれば、スキャナーは文字列を完璧に複製することができ、データ転送をスピードアップする効率的な方法でもあります。

現在までのところ、Capture Oneワークフローで標準的なUSBバーコードスキャナを使用することは可能です。しかし、ハードウェアとソフトウェアが統合されていない場合、このソリューションは最適とは言えません。バーコードスキャナはキーボードをエミュレートし、ひとつの文字列で文字を受信ソフトウェアに転送します。

スキャナーは箱から出してすぐに接続でき、(テキストカーソルが正しい位置に来ると)スキャンした文字列をボックスに渡すことができます。スキャナーは接続して、(テキストカーソルが正しい位置に来ると)スキャンした文字列を渡すことができます。

しかし、これでもオペレーターがアプリケーションを操作してカーソル位置を確認したり、データをコミットしたりする必要があり、望ましいクリーンで自動化されたワークフローにはまだ達していません。

より高度なワークフローでは、スキャナーはスキャンされた値でより多くのことを達成しなければなりません。スーパーマーケットのレジで、手作業に代わるスキャナーを考えてみましょう。コードを読み取り、価格を調べ、その値をリストに戻し、レシートに印刷する。このようなイベントの"連鎖"を写真のワークフローに適用することで、フォルダーの作成、メタデータの適用、キャプチャーなど、ユーザーが望むあらゆる作業を取り除くことができるのです。

# ソリューション

Version 1.0ソリューション (Capture One Enterprise 12.1 - 2019年6月)

基本的なバーコードリーダー機能(12.1で開発および実装されたもの)の概要は次のとおりです。

Capture One Enterpriseに統合されたバーコードスキャナツールは、アセットがキャプチャーされる際に正しく名前が付けられ、識別されるように設計されています。

バーコードツールは、Next Capture Naming (ネクスト キャプチャー ネーミング) ツールと組み合わせて使用することが重要です。

スキャンしたバーコードIDは、キャプチャ中に作成される画像名の一部として挿入する必要があります。これは、Next Capture Naming (ネクスト キャプチャー ネーミング) ツールのネーミング構造の一部としてバーコードトークンを使用することで行われます。

この設定は、関連する画像をキャプチャーする前にバーコードをスキャンすることが重要であることを意味します。

MacでCapture One Enterpriseを使用している場合、AppleScriptを利用することで、バーコード文字列を使用できる可能性が広がります。

## 対応するバーコード

バーコード スキャナー機能は、プレフィックス/サフィックスを使用してセットアップできるスキャナーのみをサポートします。これは、Capture One Enterprise がバーコード テキスト文字列の開始と終了を正確に知るために必要です。次のリニア 1D バーコードがサポートされています。

- UPC-A
- EAN-13
- IFT (インターリーブド2 of 5)
- Code 39, Code 93, Code 128
- Codabar
- Matrix 2 of 5
- Rss-14

注：QRコードなどの2次元バーコードは現在サポートされていません。

## Version 1.0で現在サポートされているスキャナー (Capture One Enterprise 12.1 - 2019年6月)

- DataLogic Gryphon
- Honeywell Xenon
- Symbol LS
- 構成可能なスキャナ ハードウェアの概要/例をダウンロードします。

注：このリストにないスキャナも動作する可能性があり、より多くのスキャナが正常に動作することが確認されれば、リストは更新されます。複数のスキャナーを同時に使用することはできません。

一度に設定・使用できるスキャナーは1台のみです。



## 高度な使い方

### ワークフローの拡張（自動化の例）

小売環境では、企業は、写真チームによって画像化される商品に関連するデータを含むデータベースに支えられた1つ以上のPIM（商品情報管理）、ERP（企業資源計画）、CMS（コンテンツ管理システム）システムを持つことができます。

## 高度な使用

### Barcode done バーコード完了スクリプト（Macのみ）

Barcode done は、スキャナーがスキャンしたときにアクションを実行する「イベント」スクリプトです。ユーザーは、スキャン時に呼び出されるスクリプトを指す1つのスクリプトと、それ自体が実行されるスクリプトを実行して、この機能を有効にする必要があります。

## バーコードスキャナの設定

USB デバイスは、データをラップするプレフィックスとサフィックスを使用して構成する必要があるため、スキャンごとに次の構造体が送信されます - <プレフィックス><スキャンデータ><サフィックス> セットアップのドキュメントはここにあります。

イベント スクリプト (スキャン イベント ごとに実行される) を使用すると、Capture One Enterprise でアイテムをスキャンし、製品情報を検索することができます。

新しい Next Capture Meta Data ツールの機能を活用することで、このデータを Capture One に戻すことができ、Capture One Enterprise チームに豊富なメタデータワークフローを提供します。

# ネクスト キャプチャー メタデータとPIMシステム 理想的な使用事例

バーコードツールのバーコード値とバーコードをスキャンしたスクリプトを活用して、値を別の場所に渡します。

## クライアント固有の注意事項

- キャプチャー前のPIMにどのような製品詳細データが存在し、そのデータ入力プロセスは効率的ですか？
- クライアント PIM の API は、どのように情報を受け入れますか？
- クライアント PIM の API はどのように情報をエクスポートしますか？

